

議会報告会等の開催に関する意見等

※この資料は、第3回議会改革推進協議会で配布された議会報告会等の他市実施状況資料などをもとに、第4回協議会での協議で出された意見等の発言要旨を時系列でとりまとめたものである。

○まずはやってみる、やった中で課題とかを考えて、どうしたらよいかを考えていくべき。

○一旦やるべきだな、と思う。

改善点はいっぱい、事例報告にのっているんで、それは最初にわかってから始めることができるので、最初からやりにくい方法でやることもないし、事例の中で、よりよきような方法を研究して、やってみるという方向で考えていったらいいかと思う。

○議会報告会の人数が少なくなっているというような状況がある自治体はいくつかある。

地域に打って出ていけば、またその地域からもまた、来やすくなるというものもある。

報告会をやるに当たって、それぞれその担当の議員がチラシを何千枚も配って、「やりますよ」と周知をするのが、結構いろいろ努力しているところが、集まっているという話も聞く。

最初は要望。それがだんだんと政策的なことや、市議会で役割が理解できるようになったうえでの議論を高めた発言に変わってきているという、住民側も変化していくという素地も出来てきている。

自分たちにとって違う立場の人たちから、いろいろな指摘やご意見がもちろんあって、そういう場というのはなかなか、あるようで無いので、それはそれでその貴重な意見として受け止めたうえで、議会として果たす役割というものもあるのかなと思う。

○議会として、議会報告会は何のためにやるのか。やりたいという人に聞きたい。

○議会として議会報告会は何のためにやるのか、ということだが、市民が有権者で、直接民主主義が原則。これができないから代議制をとっている。市民の意見を聞いて、議会で代弁してそこで市長とやりあう。これが二元代表制でしょう。

会派を組んで、そういう中でしかし、意見が対立することはある。どう調整するかという話は、市民にいろいろ意見を聞いて、その少数意見をどうするか、という議論を積み重ねて変わっていく。

市民の目線でこれは考えなくてはいけない、と思っている。

○市民が議会を知ることに関しては、制度的に担保されているとは思う。それでもやはり、捕捉しえない市民の声というものが、やはりあると思う。そうした場合に、

ハードルを少し下げて、とっつきやすいものとか、というもので、市議会として発信する機会は必要なのかな、と思う。

ただ、前回（「あり方」検討協議会市民説明会）やったものと次回にやるものを、データとか検証して、またこういったものを続ける必要があるのか、もしくは内容を変えていくとか。とにかくもう一回何かそういった形でやってみるのはいかがかな、と思う。

○議員全員で取り組んだことだから、全員で報告するというのはいいが、毎議会ごとに議会報告するというのは、それぞれの会派の意見が、たまたま結論が出たよ、という形の報告だけなので、あまり意味がない。

例えば、議会として「政策条例」を作りましたと。これは皆さんに聞いてもらいたいからやりましょう、というならばわかる。

議会報告を目的としてしまうと、違ってきてしまう。

あくまでも手段であるので、そこは、「とにかく実施しましょう」というのは違うと思っている。もし、仮にやるとすれば、ちゃんとしたテーマを持って、「いま議論が進んでいます」「こういう状況でこういうテーマで、いま懸案事項はこうで」「じゃあ、皆さんの意見はどうですか」と。これなら、すごく意義がある。

○議会として市民と直接対峙するという方法が、今は議会報告会という手法以外に編み出されてないというのが非常につらいな、という思いがする。

そういう手法がもう一つ編み出されれば、そちらに行ってしまうといいんだろうが、今のタイミングで、市民と対峙するには、今はこれが一番なのかな、という思いはある。

○テーマを絞って意見を聞くなら、非常に意義があると思う。定数削減、給料の問題も、一遍でも市民の集中砲火を浴びたほうがいいと思う。

○基本的に私たちは、市民の税金を報酬としていただいている。だから、できるだけいろいろな機会を使って、自分たちのしていること、議会でいろいろ議論していること、そういったことをできるだけ多くの市民に伝える義務があると思う。

それが議会報告会であり、市議会だよりであり、それはいろいろな方法がある。まずはやりましょう、市民にできるだけ議会がいろいろやっていることを、報告する機会を多く持ちましょうということに何が問題があるのか。

○議会報告会を開く目的、テーマができて、開くことによってある程度、これだけの、きちっと市民に伝えるべきことが伝わるだろうと、市民の皆さんの意見を伺うことができるだろう、ということが想定したものでやればいいと風に思っているので、必ず、毎3～4か月ごとにやらなくてはいけない、というのではなく、先ほどから出ているテーマとか目的がきちんとした形の中で開ければいい。

やった結果、いろいろ問題点も出てきて、尻すぼみになってやらなくなった。でも、この経緯がやっぱり必要なんだろうと思う。

毎回定期的にやるべきだということではなくて、やるということの方向の中で、議論

したり検討したりしていった後につなげていく。結果それが、市民の方もなんだ、やっぱり聞いてもしょがないな、というふうに思ってくるかもしれないし、議員も、これではいかんというふうに思ってくるかもしれない。それで、なくなるならなくなったで、それは一つのプロセスとしてありかな、と思う。

○議会自らが、いろいろな課題で先取りをしながら政策立案をする。現に、今回政策条例立案チームというすばらしい組織もでき上がっている。これがセットになれば、例えば、議会のたびとはいわないでも、一年にいったん、例えば、政策条例をつくりあげる、市民の皆さんに提示する一つのたたき台が、できた時点でもかまわないから、じゃあ一遍（議会報告会のようなものを）やってみますか、ということの工夫でもいいと思う。

いろいろ複合的に連動させた形で、いいテーマを作って、そして提示をすることについては、これはやぶさかではありませんので、ぜひ柔軟に、やる方向でいったん考えてみたらどうか。

○いわゆる政策条例みたいのを作るとか、いわゆる執行部に先駆けていろいろなことをやると。そういうのをまずやってもらって、それを議会報告としてやろうというのは、私は、非常に意義があると思う。

○話を聞いていたら、「そんなものは、絶対やるな」ということではない、ということ。必要があれば、それは当然やると。で、皆さんもよくよく聞いてみると、「議会報告を毎回やろう」ということではなく、同じことを言っている。ということは、方向は、何かやるということで、見えた。

それを、どういうタイミングとか、どういう形態とか、どういうテーマを持ってやるのか、ということは、これからもう少し念入りに、調べていかなくてはいけない。

○議会報告のやり方を、どう検討するか、というPTづくりについては、ちょっと預けさせていただいて。その方向で動けるように考えていく。

○皆さんの意見を伺ったが、結論を出すにはもう少し時間をかけて、協議する必要があるので、本日の協議は、この辺までとする。